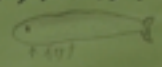
坂東太郎

利根川は、坂東太郎と呼ばれ、古くから人々にしたしまれてきました。

利根川も最初は小さな流れです。いくつも集まって、日本一の流域面積をほこるとても大きな利根川になるのです。

水源地の生物たち

矢木沢ダムの影響で道が整備された奥利根湖までは楽に行くことができます。しかし、水源地の大水上山の大雪渓へ行くことは、大変です。5月の中ごろになると、高山植物が咲き、その間をトンボやチョウが飛び交う中、渓流には、カジカやイワナといった天然魚がすんでいます。また、山の中には、ニホンカモシカ、ツキノワグマ、キツネなどがいます。



これからの利根川

利根川は、形を変えながら私たちの生活を支えてきました。そしてこれからも、計画的に利用していかなければなりません。なぜなら、水は限りがあるということです。

年々、人口が増え、水が足りなくなり、新しいダムが作られる。しかし、ダムを作るためには、そこに住んでいる所を奪わなくてはなりません。そうならないためにも、これからも水を大切にし、水と寄りそわなくてはならないのです。

川の働き

すな場ですな山をつくり、上から水をかけてみると、水は、流れていって小さな川をつくります。そして、流れていった川のふちには、けずられた砂がたまっています。これが運搬作用であることは分かりますよね。しかし、水源林というものが必要なことは知っていますか？これは雨のない日が続いたときには非常に役立ちます。雨水を吸いこんだ森や林は、とても長い長い時間をかけて、すこしずつ水を出していくため、非常に役立つのです。

「川のはたらき」図

90年前のモデル 幻のストーム台風

カスリーン台風は、9月15日朝に南西諸島の南海上で発生した台風です。この台風がもたらした利根川上流の雨量は3日間で[illegible]と318mmにも及びました。1年間に降る雨量の平均が[illegible]とすると、約2ヶ月分以上の雨を3日間で降らせたすごい台風でした。死者5[illegible]人、流失した家7102戸、半壊・全壊の家21889戸、浸水した田畑は62300haにも及ぶ大被害が[illegible]ました。